

2019年度事業計画

特定非営利活動法人 釜ヶ崎支援機構

I 事業実施期間

2019年4月1日～2020年3月31日

II 事業計画

○ 高齢化・野宿長期化の実情に即した就労対策、生活保護制度の柔軟な運用を社会化します。

釜ヶ崎支援機構は、働くことを希望し、かつ働くことができる者で野宿を余儀なくされている者が、頭かに釜ヶ崎と周辺地域にいなくなったと言える段階までは、特掃を拡充していくべきであることを訴えます。

生活保護制度の活用を勧奨するにしても、働いて暮らしていきたいという当事者の希望がある場合は、住宅扶助の支給と特掃その他での就労との併用を認め、扶養照会やケースワーカーの指導を緩めるなどの柔軟な方法をとることが、制度の隙間をうめ、脱野宿のステップアップを強力に支えることとなります。生活保護制度の柔軟な運用については、さらに学習を進め、提言を行います。

○ 仕事による居場所づくりを進めます。

釜ヶ崎の小さな街は、ホームレス状態・困窮・無縁と背中合わせに自由や孤独が認められるアジールが形成された場所として機能しつつあります。外国からの観光客増加に伴って、ホテル・民泊による再開発が進み、外国人労働者の移住や就労が活発になっている今、多様な段階と人々における軋轢を含みながら、旧あいりんセンターが閉所となり、仮施設の運用が始まっています。

釜ヶ崎の日雇労働者、ホームレス状態で生活する人たち、生活保護を受けている人たちが、社会的排除の下におかれなくようにする活動をこれまで以上に賑やかに広げていくべき時が来ています。

分散型かつ多数の居場所と衣食支援の仕組とを作ること、アートやコミュニケーションのツールを深めて、外国の方とともに開かれた往来をつくっていくこと等があります。支援機構として忘れてはならないのが「仕事づくり」です。仕事は居場所の一つです。施設が更新されていく過程で、地域の不安定労働者が働ける場所を、民間、公共、準公共で努力を傾けて作りだしていく、そしてその仕組みをどのように開かれたものにしていく（共有財産にしていく）か、このことを「あいりん地域のまちづくり」の中で議論していきます。長期計画に盛り込まれていくよう働きかけを行います。

釜ヶ崎の人々が求める「自由」と行政・社会が求める「自立」を相互にのりこえていく新しい地域の活動のかたち（ソーシャルファーム型・労働者協同組合型などいろいろ）を創り出していきます。また、仕事もふくめて人の往来を支える居場所がたくさんあり貧困・孤立に陥らないようにしっかりと支える相談及び居住支援がある都市の一角（サービスハブ）の機能を高め、維持することに努め、都市の持続性の確保と働いて安心して暮らせるまちづくりをめざします。

○受託事業の実施

2019年度、大阪府から「あいりん地域高齢労働者就労自立支援事業」、大阪市から「あいりん日雇労働者等自立支援事業」、大阪市西成区から「西成区単身高齢生活保護受給者の社会的つながりづくり事業」（ひと花プロジェクト）、「サービスハブ構築・運営事業」（どーん！と西成）、大阪ホームレス就業支援センター運営協議会の構成団体として、国の「就業支援事業」「就業開拓推進事業」、府の「あいりん地域不安定労働者就労自立支援事業」を受託しました。

その他、若干受託事業とは性質が異なりますが、あいりん労働公共職業安定所仮庁舎の施設管理業務、交通誘導警備業務の委託を、国・大阪労働局より受けました。

これらの事業を適正かつ確実に実施いたします。

【ひと花プロジェクトの活性化】

（西成区単身高齢生活保護受給者の社会的つながりづくり事業）

今年度で六年を経過するひと花プロジェクトは、居場所の提供について安定した役割を果たし、生活保護受給者が地域に貢献するためのハブ機能を高めることに成功しています。昨年度より「みんながプレイヤー」を目標に話し合いを重ねている結果、利用者数は微増に転じ、活性化が進んできました。

- （1）ひと花登録者がスタッフ不在でもできる地域の仕事を増やす。
- （2）内職作業など軽易な仕事の提供について工賃の確定。
- （3）登録者以外に開かれた利用の機会をこれまでより増やす。
- （4）受託事業の支障とならない範囲で収入を得て、事業経営の黒字化をめざす。
- （5）サービスハブ構築・運営事業と一体運営をめざす。

等の取組を進め、さらなる活動の深化をめざします。

【サービスハブ構築・運営事業の開始】

別紙をご参照ください。

【「お仕事マッチ」による就労意欲喚起と就職の支援】

（就業開拓推進事業）

お仕事マッチが、特掃登録者・シェルター利用者の求職意欲の喚起につながり、特に特掃に加える収入の底上げに貢献しています。開催ごとのふりかえりをしっかり行い、ニーズに応じた就業開拓に力を注ぎます。禁酒の館での開催の定着を進め居場所機能の活性化の役割の一端を担います。

【「あいりん地域不安定労働者就労自立支援事業」の柔軟な運用と活用推進】

中間的就労受け入れを行う企業と、55歳未満の不安定労働者を結び付け、職場への定着・常備就職を支援する本事業を活用し、土日祝のあいりん労働公共職業安定所を清掃業務の訓練場所として活用するとともに、労働者の待機場所の確保を図ります。

ワーカーズコープと連携し、いきいき清掃講習を実施、技能の習得を支援します。

[内職センターの活性化]

(就業支援事業)

あっせんできる内職作業の拡充を図ります。ひと花センターとの協業を深め、高齢者の生きがいをいづくりにも貢献することをめざします。生活困窮者自立支援制度に基づく就労訓練事業の認定を大阪市より取得します。

○仕事おこしの強化と他団体との連携

働く者が主役となって独自の仕事をおこしていけるよう多様な取り組みを深めていきます。

[ワーカーズコープとの提携]

出向職員を昨年度より受入れている日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）との提携が、ひと花プロジェクトやいきいき清掃講習で活動の場を共にすることで、深まりを見せています。

実際に協働した仕事おこしにつながるよう、民間企業、準公共施設等との交流を深めるとともに労働者協同組合の結成、ワーカーズコープとのJVを進めていきます。

「フリーヘルプとの提携」

兵庫県でリサイクル衣料の販売店を経営し、収益をホームレス生活者の支援団体等に寄付、また自ら行政からの受託事業に頼らない生活困窮者やDV被害者への相談・居場所・就労支援を行っているフリーヘルプと提携し、リサイクル・ショップ経営による釜ヶ崎の不安定労働者や生活保護受給者が参加できる仕事づくりと、地域の諸団体との連携で支援物資をシェアする仕組みづくりに取り組みます。衣類集積と整理をひと花センター及び東田ろーじへまとめ、配布・販売のシステムづくりに努めます。内職センター・ひと花センター・どーん！と西成での中間的就労作りを基本において構想します。将来においてチャリティ自転車ポタリンを統合したリサイクル事業として成立することをめざします。これらの活動を進め、リサイクル事業を確立していくために、産業廃棄物収集運搬許可を取得します。

○広報活動と職員研修

メーリングリスト、ファックスによる情報発信の仕組みは、未だ十分に活用されていないので、今年度も引き続き活性化を図ります。SNSを使った発信力を高めます。

釜ヶ崎講座とタイアップし、「仕事づくり連続講座」を引き続き、開催します。

また職員研修と並行する形で、組織外に開かれた越冬セミナーを秋冬に開催します。

その他人権研修については、他機関で行われる研修に参加するスタッフへの補助を厚くし、スタッフの意識向上と社会との連携強化を引き続きめざします。

○働きやすい環境づくり

昨年度計画していながら、手を付けられないままになっている各事業所ごとの就労規則改定に順次取り組みます。

子育てや病気・障害等々で配慮が必要な時があっても、継続して働いていける就労環境づくりについて、

昨年度に引き続き、学んでいきます。